

特集・転倒予防と自立支援①

介護の質評価と転倒事故

「防げない転倒」の周知と備え

転倒事故の少ない施設は、介護の質が高い施設ではないか、という考え方がある。「転倒」「転落」の事故報告が少ないことは、広範に多職種連携やケアのP.D.C.A.が機能しているといふ考え方に基づく。一方、日本老年医学会(神崎恒一理事長)と全国老人保健施設協会(東郷太郎会長)は2021年6月の共同声明で「老齢に伴い、多様な原因により防ぎきれない事故も一定数ある」といふに及んでいる。介護現場は離床を促す立支援と転倒リスクの中で、「どう対応を」を指すべきか。

21年6月報酬改定では、介護保険施設対象に「自立支援促進加算」が新設。本人の意向を聞きながら多職種連携、離床を促し、食事・排泄・入浴をこれまでに近い状態に保つことや、ベッド以外の場所で過ごす時間・回数などを評価する流れがあり、転倒事故への備えはこれまで以上求められるようになっている。

一つは「転倒すべてが消失による事故ではない」というもの。転倒予防策を実施していくも、「一定の確率で転倒が発生する。その中には医療・介護現場の過失がないときもある」のがある。そのため本や家庭に十分説明し、理解を得ておくことが重要だとす

き。キンググループでの約2年間トを公表した。同学会のワードを公表した。同学会のワードを公表した。同学会のワードを公表した。

転倒が発生したのかを施設内



スラージュフロアクッション

21年6月報酬改定では、介護保険施設対象に「自立支援促進加算」が新設。本人の意向を聞きながら多職種連携、離床を促し、食事・排泄・入浴をこれまでに近い状態に保つことや、ベッド以外の場所で過ごす時間・回数などを評価する流れがあり、転倒事故への備えはこれまで以上求められるようになっている。

一つは「転倒すべてが消失による事故ではない」というもの。転倒予防策を実施していくも、「一定の確率で転倒が発生する。その中には医療・介護現場の過失がないときがある」のがある。そのため本や家庭に十分説明し、理解を得ておくことが重要だとす

き。キンググループでの約2年間トを公表した。同学会のワードを公表した。同学会のワードを公表した。

転倒が発生したのかを施設内

る。現段階で介護施設に推奨される標準的な対策はないが、エビデンスや技術は進歩することから、常に研鑽し、転倒防止に努める必要があるとしている。

で検証し、その後の転倒予防に活用するための体制づくりは常におこなわれている。

2つ目は「ケアやリハビリ



ダイヤスロープ

環境要因には機器・テクノロジー活用を

転倒のリスク対策として、環境要因の改善のための商

品・設備などを充実してきた。

転倒は、高齢期に多く見られれる尿失禁・失歩・せん妄などと同様の老年症候群の一

つであることを、あらかじめ施設の職員と入所者や家族などの関係者間で共有することが望ましいとしている。

老年症候群の代表的な症候である転倒の原因は極めて多彩で複合的で、予防対策の有無にかかわらず、その時の個々のリスクに応じて一定の頻度で発生するとしている。

次回は日本転倒予防学会第10回学術大会(京都)(10月7日~8日)のレポートを掲載します。

5cm)と14度(対応段差)。

5cm)と15cm)の2タイプがあ

り、段差や障害物場所に合

わせて91種の製品を展開す

る。

転倒時のケガのリスクを軽減する。厚さ3mmと薄くすり足やすい杖を使用した歩行を妨げず、躊躇しない形狀となっている。両面に防水加工を施し、拭き掃除やアルコール消毒なども可能。

また、戸口の踏み段を設置して解消のため、シンエイテクノ(神戸市、南條潤二社長、☎0120-5633-722)

は、躊躇だけで適度に地面に密着し、そのまま使用できる硬質アルミスロープ(ダイヤスロープ)の活用を提案する。

勾配角度10度(0.5cm)

タ)の採用により、敷きだけ

で転倒時のケガのリスクを軽

減する。

厚さ3mmと薄くすり足

やすい杖を使用した

歩行を妨げず、躊躇しない形

状となっている。両面に防水

加工を施し、拭き掃除やアル

コール消毒なども可能。

また、戸口の踏み段を設置して解消のため、シンエイテクノ(神戸市、南條潤二社長、☎0120-5633-722)

は、躊躇だけで適度に地面に密着し、そのまま使用できる硬質アルミスロープ(ダイヤ

スロープ)の活用を提案する。

例えは、自立支援促進のた

めりハビリフロア

やトイレ・食堂・浴室を往來す

る機会が増えること

とか、施設内の

動線の転倒リスク

対応のため、イン

アックリビング

(東京都品川区、

神谷秀幸社長、☎

050-3130-

8829)は「ス

ラージュフロア

クッション」を提

案している。

薄型で衝撃吸収

に優れる耐久性

のある高機能ウ



転倒に関するステートメント

次回は日本転倒予防学会第10回学術大会(京都)(10月7日~8日)のレポートを掲載します。